

勉誠出版

近世文学会 会員様対象 特別割引のご案内

全品 **20%OFF**

割引クーポンコード: e76403fd01
(期限: ~2021年11月30日)

謹啓

日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。
さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。
当リストの新刊・近刊書籍をはじめ、勉誠出版タイトル全品が対象となります。
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード: e76403fd01 (期限: ~2021年11月30日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！
未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費／私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- ・2000円以上のお買い上げで、国内全国送料サービス(※ 海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
近世文学会の会員であることをお知らせください。**

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp
電話 03-5215-9021
FAX 03-5215-9025

より詳細な「研究書 新刊・近刊のご案内」が
右のQRコードからダウンロードいただけます。



最新の出版総合目録は
右のQRコードから
ダウンロードいただけます。



新刊書籍一覧 注文書

* 割引価格は税込です。

ISBN	書名	編著者	出版年	本体価	割引価格	注文数
◆近刊						
31004-4	慶應義塾図書館蔵 論語疏卷六 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵 論語義疏 影印と解題研究	慶應義塾大学論語疏研究会 編	2021/10	18,000	15,840	
32011-1	室町文化の座標軸―遣明船時代の列島と文事	芳澤 元 編	2021/10	9,800	8,624	
32008-1	日記と雑誌記事から読む日露戦争（仮）	西川武臣 著	2021/9	2,800 (予価)	2,464 (予価)	
29612-6	中国史書入門 現代語訳 北齊書	氣賀澤保規 監修／池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之 訳	2021/11	6,000	5,280	
◆新刊・既刊						
39004-6	説話の東アジア―『今昔物語集』を中心に	高陽 著	2021/9	12,000	10,560	
32007-4	怪異学講義―王権・信仰・いとなみ	東アジア怪異学会 編	2021/9	3,200	2,816	
32006-7	戦国時代劇メディアの見方・つくり方―戦国イメージと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2021/9	3,200	2,816	
32009-8	日本中世社会と村住人	蔵持重裕 編	2021/10	9,500	8,360	
39001-5	もう一度読みたい日本の古典文学	三宅晶子 編	2021/7	2,400	2,112	
31001-3	中世寺院の仏法と社会	永村眞 編	2021/6	12,000	10,560	
32001-2	首里城を解く―文化財継承のための礎を築く	高良倉吉 監修／島村幸一 編	2021/9	3,800	3,344	
31002-0	創られた由緒―近世大和国諸社と在地神道家	向村九音 著	2021/6	8,000	7,040	
30002-1	書物・印刷・本屋―一日中韓をめぐる本の文化史	藤本幸夫 編	2021/6	16,000	14,080	
29199-2	中世和歌論―歌学と表現と歌人	中川博夫 著	2020/11	12,000	10,560	
29204-3	真田幸弘点取百韻 翻刻と解題	玉城司・小幡伍 編著	2021/2	9,000	7,920	
29200-5	中国古典文学に描かれた厠・井戸・簀―民俗学的視点に基づく考察	山崎藍 著	2020/11	9,000	7,920	
20077-2	中近世移行期の文化と古活字版	高木浩明 著	2020/12	15,000	13,200	
29196-1	幕末明治の社会変容と詩歌	青山英正 著	2020/2	10,000	8,800	
29202-9	和漢朗詠集とその享受 増訂版	三木雅博 著	2021/1	15,000	13,200	
39000-8	物語文学の諸相と展開	中野幸一 著	2021/3	12,000	10,560	
20078-9	アーネスト・サトウと蔵書の行方 ―『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって	小山騰 著	2020/11	4,200	3,696	
31003-7	日本古代の仏教者と山林修行	小林崇仁 著	2021/8	12,000	10,560	
32003-6	中世武家領主の世界―現地と文献・モノから探る	田中大喜 編	2021/8	3,800	3,344	
35000-2	古建築調査ハンドブック	山岸常人・岸泰子・登谷伸宏 著	2021/8	1,400	1,232	
32401-0	古文書研究 第 91 号	日本古文書学会 編	2021/7	3,800	3,344	
22289-7	渤海の古城と国際交流	清水信行・鈴木靖民 編	2021/2	14,000	12,320	
22300-9	中世の博多とアジア	伊藤幸司 著	2021/2	9,500	8,360	
22301-6	戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修 著	2021/2	9,000	7,920	
22277-4	古文書への招待	日本古文書学会 編	2021/1	3,000	2,640	
22280-4	増補改訂新版 日本中世史入門―論文を書こう	秋山哲雄・田中大喜・野口華世 編	2021/2	3,800	3,344	
32002-9	近世の村と百姓	渡辺尚志 著	2021/8	9,800	8,624	
32502-4	元朝の歴史―モンゴル帝国期の東ユーラシア【アジア遊学 256】	櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉 編	2021/6	3,200	2,816	
32505-5	書物のなかの近世国家―東アジア「一統志」の時代【アジア遊学 259】	小二田章・高井康典行・吉野正史 編	2021/8	3,000	2,640	
32004-3	杉田玄白と江戸の蘭学塾―「天真樓」塾とその門流	片桐一男 著	2021/7	7,000	6,160	
22297-2	鷹狩の日本史	福田千鶴・武井弘一 編	2021/2	3,800	3,344	
32000-5	勤番武士の江戸滞在記―国枝外右馬江戸詰中日記	岩淵令治 編	2021/3	10,000	8,800	
27058-4	明治の一発屋芸人たち―珍芸四天王と民衆世界	永嶺重敏 著	2021/1	3,500	3,080	
22299-6	土地の記憶から読み解く早稲田―江戸・東京のなかの小宇宙	ローザ・カーオリ 著／大内紀彦、フィリップ・ドルネッティ 訳	2021/3	2,700	2,376	
32501-7	東アジアにおける知の往還【アジア遊学 255】	国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院 共編	2021/3	2,800	2,464	
32500-0	東アジアの歌と文字【アジア遊学 254】	真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉 編	2021/3	2,800	2,464	
32503-1	交錯する宗教と民族―交流と衝突の比較史【アジア遊学 257】	鹿毛敏夫 編	2021/7	2,800	2,464	
32504-8	史料が語る東インド航路―移動がうみだす接触領域【アジア遊学 258】	水井万里子・大澤広晃・杉浦未樹・吉田信・伏見岳志 編	2021/7	2,800	2,464	

32506-2	アヘンからよむアジア史【アジア遊学 260】	内田知行・権寧俊 編	2021/9	2,800	2,464	
38000-9	日本語文字論の挑戦—表記・文字・文献を考えるための 17 章	加藤重広・岡端裕剛 編	2021/3	7,000	6,160	
21057-3	大嘗祭—隠された古層	工藤隆・岡部隆志・遠藤耕太郎 編	2021/1	3,800	3,344	
29203-6	親相の文化史	相田満 著	2021/2	9,000	7,920	
22140-1	新装版 唐物と東アジア—舶載品をめぐる文化交流史	河添房江・皆川雅樹 編	2016/2	2,000	1,760	
30001-4	大宅壮一文庫解体新書—雑誌図書館の全貌とその研究活用	阪本博志 編	2021/5	3,500	3,080	
82254-7	パブリック・ヒストリー入門—開かれた歴史学への挑戦【オンデマンド新版】	菅豊・北條勝貴 編	2021/5	4,800	4,224	
20074-1	日本の図書館建築—建築からプロジェクトへ	五十嵐太郎・李明喜 編	2021/3	3,500	3,080	
20285-1	新しい産業創造へ【デジタルアーカイブ・ベーシックス 5】	時実象一 監修／久永一郎 責任編集	2020/5	2,500	2,200	
22279-8	古代の日本と東アジア—人とモノの交流史	鈴木靖民 著	2020/7	10,000	8,800	
22278-1	新羅中古期の史的研究	武田幸男 著	2020/7	12,000	10,560	
22288-0	金沢文庫古文書 喫茶関係編年資料集	永井晋 編	2020/9	10,000	8,800	
22272-9	古文書の様式と国際比較	小島道裕・田中大喜・荒木和憲 編／国立歴史民俗博物館 監修	2020/2	7,800	6,864	
20073-4	日本の表装と修理	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 編	2020/3	7,000	6,160	
22268-2	日本建築の歴史的評価とその保存	山岸常人 著	2020/2	17,000	14,960	
22276-7	近世大名墓の考古学—東アジア文化圏における思想と祭祀	松原典明 編	2020/6	12,000	10,560	
22290-3	生きるための地域史—東海地域の動態から	中村只吾・渡辺尚志 編	2020/10	8,000	7,040	
22266-8	日本近世社会と町役人	望月良親 著	2020/2	6,000	5,280	
22265-1	近世豪商・豪農の〈家〉経営と書物受容—北奥地域の事例研究	鈴木淳世 著	2020/2	10,000	8,800	
22267-5	近世都市の常態と非常態—人為的自然環境と災害	渡辺浩一／マシュー・デーヴィス 編	2020/2	7,000	6,160	
20076-5	江戸庶民のまじない集覧—創意工夫による生き方の智慧	長友千代治 著	2020/10	6,000	5,280	
22269-9	江戸日本橋商人の記録—〈にんべん〉伊勢屋高津伊兵衛家の古文書	澤登寛聡・筑後則 編	2020/3	11,000	9,680	
21056-6	儒教儀礼と近世日本社会—閨斎学派の『家礼』実践	松川雅信 著	2020/7	10,000	8,800	
22261-3	甦る「豊後切支丹史料」—バチカン図書館所蔵マレガ氏収集文書より	松井洋子・佐藤孝之・松澤克行 編	2020/2	12,000	10,560	
29197-8	琉球船漂着者の「聞書」世界—『大島筆記』翻刻と研究	島村幸一 編	2020/3	10,000	8,800	
22257-6	歴博甲本洛中洛外図屏風の研究	小谷量子 著	2020/2	10,000	8,800	
22292-7	挑発する軍記	大津雄一 著	2020/10	3,800	3,344	
22291-0	吉田松陰と学人たち	徳田武 著	2020/10	10,000	8,800	
20072-7	医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界	陳捷 編	2020/2	12,000	10,560	
22286-6	ロマンフ王朝時代の日露交流	東洋文庫・生田美智子 監修／牧野元紀 編	2020/8	3,800	3,344	
22275-0	スイス使節団が見た幕末の日本—ブレンワルド日記 1862-1867	横浜市ふるさと歴史財団・ブレンワルド日記研究会 編	2020/6	9,800	8,624	
22285-9	新彰義隊戦史—附・「彰義隊名鑑」「彰義隊文書」	大蔵八郎 編	2020/11	7,000	6,160	
23081-6	「本読み」の民俗誌—交叉する文字と語り	川島秀一 著	2020/6	3,500	3,080	
22263-7	沢沢敬三とアチック・ミュージアム—知の共鳴が創り上げた人文学の理想郷	加藤幸治 著	2020/1	3,500	3,080	
22264-4	荒れ野の六十年—東アジア世界の歴史地政学	與那覇潤 著	2020/1	3,200	2,816	
27055-3	日本画の所在—東アジアの視点から	北澤憲昭・古田亮 編	2020/4	6,500	5,720	
22069-5	宋代中国都市の形態と構造	伊原弘 著	2020/6	4,500	3,960	
22262-0	描かれたマカオ—オーダーウェント・コレクションにみる東西交流の歴史	貴志彦彦・朱益宜・黄淑薇 編	2020/4	22,000	19,360	
21054-2	メディアのなかの仏教—近現代の仏教の人間像	森覚 編	2020/5	7,500	6,600	
21055-9	上海におけるプロテスタント—現代中国の都市と宗教空間をめぐる変遷	村上志保 著	2020/5	6,000	5,280	
22718-2	中世日本の茶と文化—生産・流通・消費をととして【アジア遊学 252】	永井晋 編	2020/9	2,800	2,464	
22717-5	仏教の東漸と西漸【アジア遊学 251】	荒見泰史 編	2020/9	2,800	2,464	
22716-8	酔いの文化史—儀礼から病まで【アジア遊学 250】	伊藤信博 編	2020/8	2,800	2,464	
22715-1	漢学とは何か—漢唐および清中後期の学術世界【アジア遊学 249】	川原秀城 編	2020/7	2,800	2,464	
22714-4	明治が歴史になったとき—史学史としての大久保利謙【アジア遊学 248】	佐藤雄基 編	2020/6	2,800	2,464	
20718-4	書物学 第 18 巻 蔵書はめぐる—海外図書館の日本古典籍コレクション	編集部 編	2020/7	1,800	1,584	

* リストに無い書籍をご注文の際は、こちらにお書きください

お申し込みは
Web Site●<https://bensei.jp>
FAX●03-5215-9025
E-mail●info@bensei.jp

勉誠出版
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2 丁目 18-4
TEL 03-5215-9021

ご氏名	備考欄 * 公費・私費の区別をお知らせください * 公費の場合には、必要書類・宛名・日付の有無をお書きください
ご住所	
電話番号	

資料論がひらく 軍記・合戦図の世界

アジア遊学
262

井上泰至〔編〕
理文融合型資料論と史学・文学の交差

学問の対話が切りひらく
新たな沃野

文学・歴史に関する資料の研究は、近年進展が著しい理工学の研究方法を導入して、大きな変化の節目を迎えつつある。そこには文学・史学で個別に蓄積してきた資料への知見の垣根を超える新地平が広がっている。電子顕微鏡調査、クラスター分析などの理工学的手法を利用した研究、文学・史学・美学の枠組みを飛び越える新たな資料論など、諸学の交差領域である合戦図・軍記を中心に、最先端の研究状況とこれからの課題を指し示す画期的成果。

【編者紹介】

井上泰至 いのうえ やすし

防衛大学校教授。専門は日本近世文学。

主な著書に『近世刊行軍書論』(笠間書院、二〇一四年)、『近世日本の歴史叙述と対意識』(編著、勉誠出版、二〇一六年)、『関ヶ原はいかに語られたか』(編著、勉誠出版、二〇一七年)、『関ヶ原合戦を読む―慶長軍記 翻刻・解説』(勉誠出版、二〇一八年)などがある。



【目次】

カラー口絵

序文：井上泰至

Ⅰ●理文融合型資料論の実践

コディコロジー(文理融合型総合典籍学)の実践(基調講演)：石塚晴通

「コメント」：佐々木孝浩

『聚楽行幸記』の写本学：竹内洪介

「コメント」：佐々木孝浩・堀新

豊臣秀吉冊封関連史料に紙質から迫る

―三通の明国兵部御付原本の検討：須田牧子

「コメント」：佐々木孝浩・堀新

計量テキスト分析を用いた戦国軍記の分類：山本洋

「コメント」：湯浅佳子・入口敦志

デジタル技術による合戦図屏風の再生

―大坂冬の陣図屏風 模本のデジタル想定復元について：薄田大輔

「コメント」：湯浅佳子・黒田智・入口敦志

草双紙における上紙摺の意義：佐藤悟

近世彩色絵画資料における色材の分析：日比谷孟俊・大和あすか

Ⅱ●史学と文学研究の交差 ―十七世紀の軍記と関連資料への視座

山内首藤氏の「討死」と『平治物語』『平治物語絵巻』『平治合戦図屏風』：川合康

天正十六年『聚楽行幸記』の成立について：遠藤珠紀

古活字版『帝鑑図説』再考：『帝鑑図説』は本当に(秀頼版)か：高木浩明

南庵『信長記』とその周辺：『太平記秘伝理尽抄』との関わり：湯浅佳子

『慶長治乱記』にみる関ヶ原合戦軍記の展開：林晃弘

Ⅲ●兵学と有職学 ―十九世紀の軍記と関連資料の展開

田安宗武の武家故実研究―『軍器摘要抄』をめぐる：高松亮太

旧海軍兵学校蔵蔵見文庫『兵家系図』をめぐる：井上泰至



書名

部数

資料論がひらく軍記・合戦図の世界

理文融合型資料論と史学・文学の交差

【アジア遊学 262】

定価 3,520円(税込)・本体3,200円

A5判並製カバー装・口絵12頁+本文224頁
2021年10月刊行
ISBN978-4-585-32508-6 C1321

部

ご送付先ご住所(通信欄)

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

戦国時代劇メディアの見方・つくり方

戦国イメージと時代考証

大石学・時代考証学会〔編〕

史実と創作の狭間で――

時代劇や歴史小説、漫画、アニメ、ゲームなどの創作において、虚構と現実の間を埋めるという重要な役割を持つ「時代考証」。

歴史的事実との整合性を図りながら、

エンターテインメントを追及する上で、

「時代考証」はどのように関わっているのか。

また、メディアの中で描かれる歴史上の人物のイメージは、時代によつてどのような変遷を遂げているのか。

歴史意識・イメージの変遷と

そこに影響を与えるポップ・カルチャーの関係にも注目。

研究者、漫画家、俳優、ドラマ制作者、市民などのさまざまな視点から、「時代考証」を考察する、
歴史ファン必携の一冊。

【編者紹介】

大石学（おおいし まなぶ）

一九五三年生まれ。東京学芸大学名誉教授、日本芸術文化振興協会幹事。専門は日本近世史。大河ドラマ「新選組」篤姫、龍馬伝「八重の桜」「花燃ゆ」「西郷どん」の時代考証を担当。著書に『時代劇の見方・楽しみ方――時代考証とリアリズム』（吉川弘文館、二〇一三年）、「今に息づく江戸時代――首都・官僚・教育」（吉川弘文館、二〇二一年）など多数。

【目次】

はしがき……大石学

序論……野本禎司

特論 戦国時代劇と時代考証……大石学

第1編 時代劇メディアとポップ・カルチャー

1 時代考証数珠繋ぎ……尼子騒兵衛

2 時代劇メディアの中の「ポップ・カルチャー」

――時代考証の所在を手がかりに――花岡敬太郎

3 剣豪イメージと時代コンテンツの変遷

――柳生十兵衛を事例として――玉井建也

シンポジウム「時代劇メディアと「ポップ・カルチャー」の境界を歩く」

趣旨説明……花岡敬太郎

コメント……大橋崇行

パネルディスカッション……花岡敬太郎／玉井建也／尼子騒兵衛／大橋崇行／司会 茂木謙之介

第2編 時代劇と戦国イメージ

4 戦国時代・武将のイメージ形成過程について……山野井健五

5 時代劇は存続するか？……佐藤峰世

6 戦国武将を演じるにあたって……森田順平／聞き手…金井貴司

シンポジウム「戦国時代イメージを考える――時代劇メディア・学問・市民」

趣旨説明……門松秀樹

パネルディスカッション……山野井健五／佐々木倫朗／森田順平／佐藤峰世／司会 神谷大介

第3編 三英傑イメージの変遷

7 織田信長イメージの現在……橋本章

8 豊臣秀吉イメージの現在……井上泰至

9 徳川家康イメージの現在……原史彦

第4編 歴史系学問と戦国イメージ

10 戦国大名の実像――殿様と家来……佐々木倫朗

「呂宋助左衛門」と海域アジア交易――時代劇が培う歴史像……川戸貴史

「設楽原」の発見――時代劇メディアの民俗学……及川祥平

13 特別展「戦国時代展」の思考……西山剛

【コラム】戦国イメージをドラマ化することの意味と面白さを考える

――時代考証学会第六回シンポジウムに参加して……花岡敬太郎

【コラム】「お目付役」を超えるために

――時代考証学会第六回シンポジウムのアンケート回答から……鈴木一史

【コラム】時代考証の役割とメディアリテラシー

――時代考証学会第一回シンポジウムのアンケート回答から……工藤航平

あとがき……時代考証学会

定価二、五二〇円（税込）
（本体二、二〇〇円）
A5判・並製・三七六頁
二〇二一年九月刊行
ISBN978-4-585-32006-7 C0021

書 名	部 数
戦国時代劇メディアの見方・つくり方 戦国イメージと時代考証 大石学・時代考証学会〔編〕	部
定価3,520円（税込） [本体3,200円] A5判・並製・376頁 ISBN978-4-585-32007-4 C0021 2021年10月刊行	
ご送付先ご住所（通信欄）	

儒教儀礼と 近世日本社会

闇齋学派の『家礼』実践

松川雅信 [著]

近世日本にとって儒教儀礼とは
何であったのか――

科挙のような儒教的制度を持たない一方、
仏教の葬儀や祭祀が行われていた近世日本社会。
そうした社会を生きる儒者たちは、
殊に東アジアで絶大な影響力を誇った

『家礼』記載の喪祭礼を、どのように捉え、
そしていかにして実践しようとしたのか。

長期間にわたってこの問題と真摯に向き合い続けた、
山崎闇齋を学祖とする闇齋学派に着目、
思想と社会とが様々に交錯する

現場に立ち入ること、
これまで見落とされてきた
近世日本儒教の新しい一面を照らし出す。

【著者プロフィール】

松川雅信 (まつかわ まさのぶ)

日本学術振興会特別研究員。専門は日本思想史、日本近世史。
主要論文に、「近世儒者の神代巻批判」と「神道」上古――鈴木貞斎に即して――山下久夫・斎藤英喜編『日本書紀1300年史を問う』思文閣出版(二〇二〇年)、「近世日本の儒教儀礼と儒者――東アジア思想史のための試論的考察」(桂島宣弘ほか編『東アジア 遭遇する知と日本――トランスナショナルな思想史の試み』文理閣、二〇一九年)、「稲葉黙斎の喪礼実践論――祖徳学批判・仏教認識に注目して」(第一回日本経済思想史学会賞受賞)、『日本思想史学』五十号(二〇一八年)などがある。

受賞致しました！

「第15回 立命館白川静記念東洋文字文化賞奨励賞」
「第15回 日本思想史学会奨励賞(書籍部門)」
「第7回 中村元東方学術奨励賞」

【目次】

序章

第一部 浅見綱斎とその周辺

第一章 「此方ナリ」の『家礼』実践

――基軸としての「本」と「文」――

第二章 「物ナリ」の思考――「格物」と喪礼実践

第三章 「心ノ理ナリ」による来格――鬼神論と祭礼実践

第二部 闇齋学派の地域展開と『家礼』実践

――尾張と上総を中心に――

第四章 尾張藩の学問所と『家礼』

――蟹養斎による喪祭礼実践の教導

第五章 寺請・寺檀体制下の『家礼』実践

――中村習斎と尾張崎門派

第六章 「反徂徠」と『家礼』実践――稲葉黙斎と上総道学

終章

あとがき
索引

本体 10,000 円(+税)

A5 判上製カバー装・440 頁
ISBN 978-4-585-21056-6 C3010
2020 年 7 月刊行

書名	部数
儒教儀礼と近世日本社会 闇齋学派の『家礼』実践 松川雅信 [著]	本体10,000円(+税) A5判上製カバー装・440頁 ISBN978-4-585-21056-6 C3010 2020 年 7 月刊行
ご送付先ご住所(通信欄)	

近世の村と百姓

渡辺尚志〔著〕

近世社会の特質を探る

近世社会において、百姓たちは領主や他の諸身分、また、周辺の地域社会とどのように関わり、折衝を行ってきたのか。災害など不慮の事態に如何に対応を講じてきたのか。各所に伝わる一点一点の史料を丁寧に読み込むことで、近世日本社会を生き抜いてきた村と百姓の底力を照射する。多くの新稿・新知見を盛り込んだ、近世村落史研究を長年にわたり領導してきた著者による待望の最新著書。

【目次】

序章

第一部●出羽国村山郡の村と百姓

第一章…郡中議定からみた村と地域社会

第二章…年貢納入をめぐる村と領主

—松前藩領の酒田買替米を事例として—

第二部●両総地域（上総・下総両国）における村と百姓

第三章…両総における旗本知行所と相給村落

—川村優氏の業績によせて—

第四章…備荒貯蓄にみる百姓・領主関係

—「積石一件」を事例として—

第五章…無年季的質地請戻し慣行を再考する

第六章…幸谷村にみる相給村落の特質

第三部●近世の村と百姓

—村山郡と両総地域を中心に—

第七章…土地と日本人

—近世の村から、近代以降の土地所有を再考する

第八章…土地問題をめぐる百姓の意識

—中林真幸氏の論文によせて—

終章

あとがき／索引



【著者紹介】

渡辺尚志（わたなべ たくし）

一橋大学名誉教授。

専門は日本近世村落史。

著書に『幕末維新期の名望家と地域社会』（同成社、二〇一四年）、『百姓たちの水資源戦争』（草思社、二〇一四年）、『日本近世村落論』（岩波書店、二〇二〇年）、編著に『生産・流通・消費の近世史』（勉誠出版、二〇一六年）、『移行期の東海地域史——中世・近世・近代を架橋する』（勉誠出版、二〇一六年）、『生きるための地域史——東海地域の動態から』（共編著、勉誠出版、二〇二〇年）などがある。

定価一〇、七八〇円（税込）
（本体九、八〇〇円）

A5判上製カバー装・三八八頁
二〇二二年八月刊行
ISBN978-4-585-32002-9 C3021

書名	部数
近世の村と百姓 渡辺尚志〔著〕	定価10,780円（税込）・本体9,800円 A5判・上製カバー装・388頁 2021年8月刊行 ISBN978-4-585-32002-9 C3021
ご送付先ご住所（通信欄）	部

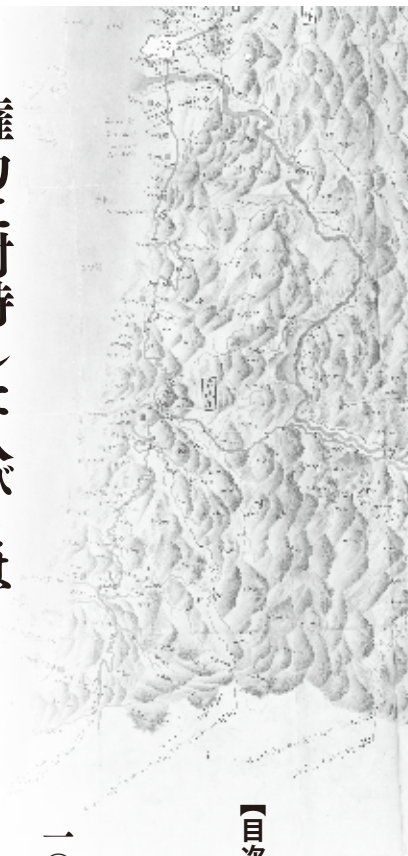
勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

日本中世社会と村住人

蔵持重裕【編】

権力に対峙した人びとは
如何にしたたかに生き抜いたのか

中世日本、村に生きた人々は、
権力の支配に接触、抵触しつつ、
それぞれの選択と行動をもって、
生存の在り方を模索していた。
残された史料を丁寧に読み込むことにより、
地に足をつけ、働き廻る、
活きるためには戦もいとわな
普通、の住民たちの動態的な歴史社会像を描き出す。

【編者紹介】

蔵持重裕(くらもち しげひろ)

立教大学名誉教授。専門は日本中世史。
著書に『日本中世村落社会史の研究』(校倉書房、一九九六年)、『中世村落
の形成と村社会』(吉川弘文館、二〇〇七年)、編著に『中世の紛争と地域社
会』(岩田書店、二〇〇九年)などがある。

【目次】

はじめに…蔵持重裕

序論 日本中世村研究の追迹…蔵持重裕

一●村の実像をもとめて

鎌倉期「百姓中」の出現…櫻井 彦

中世利根川の築堤と堤用途

——「万福寺百姓等申状」の検討…根本 崇

戦国期の仏神田と領主・地下

——越前国池田荘を事例として…窪田涼子

戦国期恵林寺の寺領と生業構成…則竹雄一

若狭湾沿岸における海村の生業競合と地域社会

——常神半島・三方五湖をとりまく村々の地域的分業…長谷川裕子

二●領主支配と村の動向

摂関家領近江国信楽荘における領域と村落…朝比奈 新

室町期守護権力による軍役・陣夫役の賦課

——播磨国矢野荘を事例として…徳永裕之

室町末期武家領主による所領支配の実態

——長尾忠景を事例に…黒田基樹

三●境界と村の力

村の自立と紛争・内乱—紀伊国三上荘願成寺と西畑村…小林一岳

中近世移行期の浅利氏と比内の村々

——陸奥・出羽国境の境目争い…遠藤ゆり子

近世初期領国境目地域における庄屋と百姓鉄砲…稲葉継陽

あとがき…小林一岳・櫻井 彦

定価 一〇、四五〇円(税込)

(本体九、五〇〇円)

A5判上製カバー装・三五二頁

二〇二一年十月刊行

ISBN978-4-585-32009-8 C3021

書 名

部 数

日本中世社会と村住人

蔵持重裕【編】

定価 10,450円(税込)・本体9,500円

A5判・上製カバー装・352頁

2021年10月刊行

ISBN978-4-585-32009-8 C3021

部

ご送付先ご住所(通信欄)

中世武家領主の

世界

現地と
文献・
モノから
探る



なぜ武士は
地域社会の中核となれたのか――？

鎌倉末～南北朝期にかけて、東国に端を発した武士団は、その本拠地を東西にひろげ、各所において地域社会との密接な関係を築き上げていく。武士集団が地域における社会編成の中核を担い、交通・流通の要衝を押さえながら、政治経済のイニシアティブを取るといったことも稀ではなかった。中世日本の重要なアクターたる武士団は、どのような実態をもつて地域社会へ受け入れられていったのか、その支配体制はどのように実現・展開されたのか。文献史料、出土遺物そしてフィールドワークによる分析という、多様な研究手法を駆使し、中世日本の特質を明らかにする画期的な一冊。

目次
序言 田中大喜

第一部 武家領主の地域支配の諸相

材木の生産・流通と武家領主 西田友広

西遷御家人内田氏の本拠景観と高津川流域

——現地調査の聞き書きと文献史料から渡邊浩貴

中世後期石見国長野荘をめぐる諸武家領主の動向 中司健一

東国地頭支配の受容と排除——肥後国人吉荘と肥前国彼杵荘 清水亮

中世武士団における一族・被官の西遷

——肥前千葉氏を事例として 湯浅治久

紀伊国における武家領主の地域支配と荘園領主 高木徳郎

第二部 地域の港湾と武家領主

石見国高津川・益田川河口域の集散地と武家領主 田中大喜

河口の港が果たした役割——瀬戸内海と日本海を比較して 鈴木康之

そこに港は存在したのか？——伝承からたどる中世の益田 松田睦彦

遠江国笠原荘の「浦」にみる中世の港湾と海村 貴田潔

第三部 モノからみる武家領主

陶磁器からみた中世益田 村木二郎

朝鮮初期における陶磁器の生産と貢納・流通 荒木和憲

遺物からみた武家領主の本拠

——静岡県の主要遺跡の遺物分析から 池谷初恵

中世後期の領主の好み——出土品と財産目録から 水澤幸一

あとがき 田中大喜／執筆者一覧

田中大喜

（たなか ひろき）一九七二年生まれ。国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学准教授（併任）。専門は日本中世史（中世武士団・在地領主研究）。古文書の様式と国際比較（共編著、勉誠出版、二〇二〇年）、『増補改訂新版 日本中世史入門——論文を書こう』（共編著、勉誠出版、二〇二二年）などがある。

定価 四、一八〇円（税込）

（本体 三、八〇〇円）

A5判並製カバー装・三六八頁

二〇二一年八月刊行

ISBN978-4-585-32003-6 C1021

書名	部数
中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る 田中大喜 [編]	定価 4,180円・本体 3,800円 A5判並製カバー装・368頁 2021年8月刊行 ISBN978-4-585-32003-6 C1021
ご送付先ご住所（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX 03-5215-9025

藤本幸夫 〔編〕

（ふじもと・ゆきお）富山大学名誉教授、麗澤大学客員教授。専門は朝鮮語学・朝鮮文献学。二〇二一年学士院賞、恩賜賞を受賞。著書に『日本現存朝鮮本研究 集部』（京都大学学術出版会、二〇〇六年）、『日韓漢文訓読研究』（編著、勉誠出版、二〇一四年）、『龍龕手鏡 鑑研究』（編著、麗澤大学出版会、二〇一五年）、『日本現存朝鮮本研究 史部』（韓国東国大学出版部、二〇一八年）などがある。

書物・印刷・本屋

図版点数
390超

日中韓をめぐる 本の文化史

- 第一部 書物のかたち・書物のジャンル
- 第二部 印刷・活字・技術
- 第三部 本屋・商業出版・蔵書

〈本書の特色〉

中国、朝鮮半島、日本に伝播した書物文化は、各国各地に於いて民間の商業出版——坊刻本——の深淵かつ絢爛な世界を形づくっていった。書籍の出版から販売・読書にいたる具体的な諸相、即ち潤筆料・版下・刻版・彫師・摺師・版木・料紙・装幀・本屋・貸本屋・書価・出版部数・流通・読者・版株・印刷術・禁書・和刻・出版統制等々を中心に、書物史研究を牽引する珠玉の執筆者35名による知見を集結、390点を超える図版資料を収載した

- 書物のジャンル、形態、印刷技術、本屋や商業出版の諸相など、日中韓の書物文化史を詳細に記述したレファレンスツールとして最適の百科事典的書籍。
- 書誌学・出版史・印刷史など、書物研究の第一線を走るオールスターが集結した画期的な一冊。
- 学士院賞、ゲスナー賞、日本出版学会賞、角川源義賞、岩瀬弥助記念書物文化賞等、様々な受賞歴を有する執筆陣が寄稿。
- 390点を超える貴重な図版資料を収載。

日中韓の知の世界を彩る
書物文化を知るためのエンサイクロペディア。

執筆者一覧

- 第一部：佐々木孝浩・柏崎順子・木村八重子・棚橋正博・佐藤圭子・鈴木圭一・石上阿希・大久保純一・湯浅淑子・鈴木俊幸・万波寿子・鈴木達彦
- 第二部：住吉明彦・堀川貴司・長澤孝三・豊島正之・林進・高木浩明・森上修・小秋元段・渡辺守邦・橋口侯之介・永井一彰
- 第三部：鈴木俊幸・塩村耕・長友千代治・岡村敏二・大沼晴暉・大木康・大塚秀高・金文京・上原究一・高橋智・藤本幸夫・李胤錫・全相昱

定価 一七、六〇〇円（税込）
（本体 一六、〇〇〇円）
B5判上製カバー装・八九六頁
二〇二一年六月刊行
ISBN978-4-585-30002-1 C3000

…詳細目次は裏面をご覧ください。

書 名		部 数
書物・印刷・本屋 日中韓をめぐる本の文化史	定価 17,600円・本体16,000円	部
	B5判上製カバー装・896頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-30002-1 C3000	
藤本幸夫 〔編〕		
ご送付先ご住所（通信欄）		

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

〈詳細目次〉

序文

藤本幸夫

●第一部

書物のかたち・書物のジャンル

佐々木孝浩	〈古写本〉	日本の写本——装訂を中心として
柏崎順子	〈江戸版〉	初期出版界の様相
木村八重子	〈草双紙〉	「草双紙」の史的展望
棚橋正博	〈黄表紙〉	黄表紙
佐藤至子	〈合巻〉	合巻における自主規制 ——『三国太郎再来伝』から『現世扶桑太郎』へ
鈴木圭一	〈中本（人情本）〉	中本二編三冊意識
石上阿希	〈春画・艶本〉	「書籍目録」にみる枕絵と好色本
大久保純一	〈錦絵〉	錦絵とは
湯浅淑子	〈おもちゃ絵〉	江戸のおもちゃ絵
鈴木俊幸	〈草紙類〉	上方の草紙類をめぐる
万波寿子	〈仏書〉	日本の仏書
鈴木達彦	〈医書〉	日本漢方の特徴と日本医書

●第二部

印刷・活字・技術

住吉朋彦	〈宋版・元版〉	宋元版研究の道程
堀川貴司	〈五山版〉	五山版をどう考えるか
長澤孝三	〈和刻本〉	「和刻本」について
豊島正之	〈キリシタン版〉	キリシタン文獻
林進	〈古活字版〉	角倉素庵はなぜ出版事業を興したのか——近世初頭、草創期の古活字版
高木浩明	〈古活字版〉	古活字版から整版へ、整版から古活字版へ
森上修	〈古活字版〉	古活字版印刷と木活字駒の彫出技法
小秋元段	〈出版史料としての反古〉	東北大学附属図書館漱石文庫所蔵古活字版『太平記鈔・音義』表紙の復元的考察
渡辺守邦	〈出版史料としての反古〉	表紙裏反古・再考
橋口侯之介	〈彫りと摺り〉	彫師・摺師から見た日本の出版形態
永井一彰	〈版木〉	板木の節

●第三部

本屋・商業出版・蔵書

鈴木俊幸	〈日本近世の本屋〉	本屋と出版——江戸時代における書籍文化の特徴
塩村耕	〈日本近世前期の商業出版〉	近世前期の出版界と西鶴
長友千代治	〈貸本屋〉	貸本屋の横顔
岡村敬二	〈蔵書・蒐書（日本）〉	蔵書家の索引、蔵版、蔵書の行方
大沼晴暉	〈蔵書・蒐書（日本）〉	田中さんのおもちゃ箱——小平市立図書館蔵本
大沼晴暉	〈日中韓の商業出版〉	日中韓坊刻本の比較研究或いは此等二か国書物の比較研究のために
大木康	〈中国の商業出版〉	中国書肆史考——近世を中心に
大塚秀高	〈中国の商業出版〉	坊刻本と物語——口頭の物語の出版について
金文京	〈中国の商業出版〉	明代建陽の商業出版と通俗小説
上原究一	〈中国の商業出版〉	明末清初の坊刻における江西の位置付けについて
高橋智	〈蔵書・蒐書（中国）〉	中国の蔵書家について
藤本幸夫	〈朝鮮の商業出版〉	朝鮮坊刻本攷
李胤錫	〈朝鮮の商業出版〉	朝鮮朝出版における坊刻本の性格と位置
全相昱	〈朝鮮の商業出版〉	坊刻本「春香伝」の発生とその変貌について

あとがき
執筆者覧
藤本幸夫

首里城を解く

高良倉吉 [監修]
島村幸一 [編]

文化財継承のための礎を築く

首里城を歴史的・文化的に
考えるために――

中国や日本、東南アジアなどとの海を越えた交流により独自の文化を築いた琉球王国。首里城は、その政治・外交の中心を担い、琉球王国の文化の豊穡さを体現する一大建造物である。数度の火災、琉球処分や沖縄戦等、歴史の荒波のなかでその大部分を損壊することとなったが、数多の人びとの尽力により、首里城復元事業が推進され、二〇〇〇年には世界遺産として登録されることとなった。

しかし、二〇一九年(令和元年)十月三十一日未明、首里城を火災がおそい、正殿と北殿、南殿が全焼し、その再建・復元は喫緊の課題として、現在検討が進められている。

失われた首里城を取り戻すために、いま、必要な知識は何か。

考古学・歴史学・建築学・文学等、諸分野の第一人者を集結、首里城の歴史と文化を解き明かし、再建に向けた礎を提示する画期的な書。

【監修者・編者紹介】

高良倉吉 (たからくらよし)

琉球大学名誉教授・元沖縄県副知事。専門は琉球王国史。首里城復元の委員。著書に『琉球王国史の探求』(榕樹書林、二〇一一年)など。

島村幸一 (しまむらこういち)

立正大学文学部教授。専門は琉球文学・琉球文化史。著書に『琉球文学の歴史叙述』(勉誠出版、二〇一五年)、『琉球船漂着者の「聞書」世界――「大島筆記」翻刻と研究』(編著、勉誠出版、二〇二〇年)など。

【目次】

序文…島村幸一

首里城を創る――正殿を中心に…高良倉吉

●考古学から

首里城の原点についての一考察

――グスク時代の遺跡で見られる隔離空間を再考する…山本正昭

出土陶磁器から見た首里グスク…瀬戸哲也

「コラム」トカラ、三島の城郭遺跡…伊藤慎二

「コラム」宮古・八重山諸島のグスク時代石積遺構について

…久貝弥嗣

●歴史学から

古琉球期における首里城の様相と変遷…上里隆史

「コラム」絵図から見た首里城…外間政明

近世琉球期の首里城――儀礼空間としての首里城…麻生伸一

「コラム」首里城で働く人々

――庖丁人と琉球の料理について…山田浩世

近代の首里城――県民に開かれた御城…喜納大作

●文学・芸能から

祭場としての首里グスク…島村幸一

芸能の舞台としての首里城…茂木仁史

漢詩に詠まれた首里城…高津孝

「コラム」首里グスクの御内原…島村幸一

散文に描かれた首里グスク…仲程昌徳

短歌のなかの首里城…屋良健一郎

●建築学・工芸から

中華礼制蕃国礼執行装置としての首里城…伊從勉

首里グスクの「異産至宝」…上江洲安亨

首里グスクを中心とした衣文化

――三山時代から近世琉球国後期頃まで…久貝典子

首里城を知るための〈入門〉十冊…輝広志

あとがき…島村幸一

定価 4,180 円(税込)
[本体3,800円]A5判・並製カバー装・336頁
ISBN978-4-585-32001-2 C1020
2021年9月刊行

書名	部数
首里城を解く 文化財継承のための礎を築く 高良倉吉 [監修] / 島村幸一 [編]	部
ご注文先住所(通信欄)	

杉田玄白と

かたぎりかずお
片桐一男 [著]

青山学院大学文学部名誉教授

江戸の蘭学塾

てんしんろう

「天真樓」塾とその門流 蘭学はどのように隆盛したのか

【目次】

はじめに

I ●杉田玄白の「天真樓」

「天真樓」塾名／学究から行動の人へ／「天真樓入門條制」／天真樓の遺識十二箇条／「瘍科醫用天真樓蔵療具図攷」／「清曠樓蔵外科療具録」／「杉田氏家蔵方」／参集の門下生／天真樓塾生名簿／教育——講義・テキスト・分量・速度——

II ●大槻玄沢の「芝蘭堂」と「載書」

「芝蘭堂」と大槻玄沢の有名要素／「芝蘭堂」をめぐる諸問題／門人帳「載書」／大槻玄沢の長崎遊学

III ●吉雄耕牛の「成秀館」

吉雄家のオランダ語／成秀館の教授／成秀館の蔵書／吉雄耕牛の訳書／「スウィーテン水」の伝来／二階オランダ坐舗／米沢藩医高橋玄勝の書翰が伝える／刺鍼法を伝えた人びと／吉雄の成秀館をめぐる検証の総括

IV ●江馬蘭斎の「好蘭堂」

塾名 好蘭堂／蘭学の師／蘭斎の「単語帳」／開塾・期間／出世のきっかけ／新元会に出席／門人姓名録／「格物堂社中門人姓名録」／格物堂社中門人姓名録／蘭斎門下の双壁／蘭斎の訳著／家訓・家法など

V ●馬場佐十郎の「三新堂」

オランダ語の師／天文台官倉内「三新堂」／馬場佐十郎のオランダ語文法書／「西文規範」とバーム原書／「蘭学梯航」について

VI ●その後の蘭学塾と門人帳

稲村三伯 海上随陽の「社盟録」／藤林普山の「玉川堂」と「瑤川堂」／小森桃塲の「素診録」／坪井信道の安懷堂と日習堂／伊東玄朴の「象先堂」／蘭方医仁保春菴・河内蘭齋片影／川本幸民の「静修堂」／緒方洪庵の適塾／吉田長淑の「蘭聲堂」／土生玄碩の「迎翠堂」／シーボルトの鳴適学舎／佐藤泰然の「順天堂」塾／松本順の「登籍人名小記」／青木周弼の門人／広瀬元恭の「時習堂」／大村益次郎の「鳩居堂」／高島秋帆の門人／江川坦庵の門人／佐久間象山の塾
おわりにかえて

【本書の特色】

◎「天真樓入門條制」「瘍科醫用天真樓蔵療具図攷」「清曠樓蔵外科療具録」などの初公開史料を解説し、杉田玄白が開いた蘭学塾の実態を明らかにする。

◎主要な蘭学塾のオランダ語、医学、兵術の教授法・思想を紹介。



書名	部数
杉田玄白と江戸の蘭学塾 「天真樓」塾とその門流 片桐一男 [著]	定価 7,700円(税込)・本体7,000円 A5判・上製カバー装・288頁 2021年7月刊行 ISBN978-4-585-32004-3 C3021
ご送付先ご住所（通信欄）	

怪異学講義

王権・信仰・いとなみ

東アジア恠異学会〔編〕

この世の「不思議」を
解き明かす

神霊・祟り・天変地異……

古来、人々が畏怖を抱き、不思議だと思い、
息災を祈った非日常的なコト・モノは媒介者により
どのように言語化され、表現され、
今日まで伝わってきたのか――

古記録や歴史書、説話、伝承、絵画といった
あらゆる資料を渉猟し、

王権・政治・祭祀・信仰・寺社・都市・村・
生活・暮らしなど多様なテーマから、
「怪異」とそれに対する人々の営みを読み解いた
画期的入門書。

【編者紹介】

東アジア恠異学会

二〇〇一年創立。代表は大江篤（園田学園女子大学教授）。
学会編著書として、『怪異学の地平』（臨川書店、二〇一九年）、『怪異を媒介するもの』（アジヤ遊学）一八七号、勉誠出版、二〇一五年）、『怪異学入門』（岩田書院、二〇二二年）、『怪異学の可能性』（角川書店、二〇〇九年）などがある。

【目次】

序論 怪異学の視点……大江篤

総論 怪異学とは何か

日本の怪異・中国の怪異・その西方の驚異……榎村寛之
国家統治と怪異……久禮旦雄
通俗信仰と怪異

――前近代中国の基層社会における災異受容史……佐々木聡

各論 怪異から考える

第一部 王権と怪異……久禮旦雄

社寺と怪異――春日社の山木枯槁を中心に……山田雄司
奇談と武家伝――雷になった松江藩家老について……南郷晃子
鎌倉幕府と怪異――『吾妻鏡』の怪異を読む……赤澤春彦
幕末の陰陽頭・朝廷と天変……杉岳志

【コラム】古代日本への「天」の思想の伝来……細井浩志

第二部 信仰と怪異……久留島元・佐々木聡

勝利に導く祖霊……佐藤信弥
霊験・神異・感通

――中国仏教における怪異なるものへの態度……佐野誠子
道教と神降ろし……山田明広
天狗信仰と文芸……久留島元
疫病と化物……笹方政紀

【コラム】崇る「水子霊」……陳宣聿

第三部 人のいとなみと怪異……木場貴俊

村と怪異……木下浩

近世京都の小社と怪異……村上紀夫

怪物を食らう……木場貴俊

絵巻の中の神と「モノ」

――目に見えぬものをいかに描くか……山本陽子
【コラム】石を降らせるのはなにものか？……化野 燐

あとがき……大江篤

定価 **3,520** 円(税込)
[本体3,200円]

四六判・並製カバー装・416頁
ISBN978-4-585-32007-4 C0021
2021年10月刊行

書 名	部 数
怪異学講義 王権・信仰・いとなみ 東アジア恠異学会〔編〕	部
ご注文先ご住所（通信欄）	

列伝体 妖怪学前史

伊藤慎吾・氷厘亭氷泉〔編〕

日本文学研究者・
國學院大學栃木短期大学准教授
イラストレーター・妖怪研究家

妖怪学のルーツを紐解く

「妖怪は（アカデミック）ではない」と言われた時代——。
そんな時代にも妖怪に魅了され、
情熱をもって研究をしていた者たちがいた。
現代の妖怪学に影響を与えた23人が刻んだ点と線を、
250点超の貴重図版とともに紹介。

戦前・戦後（前）・戦後（後）それぞれの時代の通史、
重要な刊行物・用語・動向について解説した
〈妖怪学名集〉、充実のコラム、
一八七〇～一九九六年までの妖怪学の流れをまとめた
「妖怪学参考年表」などを付す。

本邦初！ 妖怪学（以前）の流れを捉えた一冊！

彦夏極京

推薦！！

「妖怪」の時代を創った先駆者たちを
「妖怪」の次代を担う猛者たちが語る。

そして「妖怪」は
生き永らえる。

定価 **3,080** 円(税込)
[本体 **2,800** 円]

A5判・並製カバー装・352頁
ISBN978-4-585-32010-4 C0021
2021年11月刊行



【目次】

はじめに ● 学史にならない営みの歴史…伊藤慎吾

総説 ● 妖怪学前史のつきだし…氷厘亭氷泉

第一部 戦前編

戦前通史…伊藤慎吾

井上円了 ● 坪井正五郎 ● 柳田國男 ● 南方熊楠 ● 江馬務 ●

日野巖 ● 吉川観方 ● 伊東忠太 ● 岡田建文 ● 田中貢太郎

〈妖怪学名集〉化物会 ● 心霊学 ● 「妖怪名集」 ● 「芳賀郡土俗研究会報」
「コラム」小泉八雲と妖怪関係者…毛利恵太
南方熊楠の翻訳妖怪名集…伊藤慎吾／雑誌「化け物研究」…永島大輝

第二部 戦後（前）編 1945-1965

戦後アプレゲール前半通史…氷厘亭氷泉

藤澤衛彦 ● 柴田宵曲 ● 阿部主計 ● 斎藤守弘 ● 山内重昭 ●

北川幸比古 ● 山田野理夫

〈妖怪学名集〉「綜合日本民俗語彙」 ● 「画図百鬼夜行」受容史
「コラム」少年少女雑誌の怪奇記事とネタ元…幕張本郷猛
山田野理夫の怪談取材ノート…式水 downstream

第三部 戦後（後）編 1966-1996

戦後アプレゲール後半通史…氷厘亭氷泉

今野圓輔 ● 平野威馬雄 ● 水木しげる ● 佐藤有文 ●

中岡俊哉 ● 澁澤龍彦

〈妖怪学名集〉お化けを守る会 ● 「お化け図絵」 ● ジャガーボックス ●
ケイブンシャの大百科 ● 別冊太陽「日本の妖怪」
「コラム」圓輔ハカセの未刊本…氷厘亭氷泉
Japanisches Gespensterbuchと海外妖怪資料…御田鍬

妖怪学参考年表 ● 1870～1996

項目柱に用いた肖像・図版・活字の出典
あとがき…伊藤慎吾・氷厘亭氷泉・

永島大輝・式水 downstream・御田鍬・
毛利恵太・幕張本郷猛

索引



貴重図版
満載
250点超！

書 名	部 数
列伝体 妖怪学前史 伊藤慎吾・氷厘亭氷泉〔編〕	定価 3,080 円(税込) [本体 2,800 円] A5判・並製カバー装・352頁 ISBN978-4-585-32010-4 C0021 2021年11月刊行
ご送付先ご住所（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX ● 03-5215-9025

芳澤 元……………[編]

室町文化の座標軸

遣明船時代の列島と文事

金閣・銀閣の煌めきに隠れた「日本文化」の分水嶺を探る。

大きく飛躍した21世紀の室町時代研究が向かう次なるステージは、現代日本の起源といわれた「室町文化史」の検証、再構築にある。義満・義持・義教の執政期である応永・永享年間を中心に隆盛した、能・連歌・床の間・水墨画……。その創造を支えたものとは何だったのか。都鄙の境を越え、海域を渡った人びとが残した足跡、ことば、思考を、歴史学・文学研究の第一線に立つ著者たちが豊かに描き出す必読の書。

目次

まえがき●芳澤元

総論

室町文化論構想ノート——都鄙関係・境界地域からの見直し●芳澤元

第一部 文化を育てる社会構造

「室町時代」の地域性●山田徹
室町期の大名被官と都鄙の文化的活動●川口成人
室町期東国の政治・社会秩序●江田都夫
足利將軍家の規範先例——「義満型」と「義持型」なる二類型と応永という時代●石原比伊呂

第二部 室町文化の知識の源泉

年号「応永」考●臼井和樹
句題和歌と唐宋詩——出典から見た問題●小川剛生
日本中世禅林における中国文学受容について——応永年間を中心に●太田亨
世阿弥の能楽論における朱子学の影響——「大学」「中庸」の引用及び世阿弥の心身論・抽象論の形成●重田みち

第三部 諸芸の展開とその時代

足利義持の和歌・連歌とその周辺●山本啓介
応永後期の能と演者●中嶋謙昌
後土御門天皇と連句文芸——文芸を導く天皇●小山順子
連歌師宗祇、日明勘合貿易関与説の疑点●廣木一人
宗祇旧知の入明僧「吉祥院」とは誰か●橋本雄
あとがき●芳澤元

【編者紹介】

芳澤 元（よしざわ はじめ）
明星大学人文学部准教授。
専門は日本中世史、仏教文化史。
著書に『日本中世社会と禅林文芸』（吉川弘文館、二〇一七年）、
『足利將軍と中世仏教』（相国寺
教化活動委員会、二〇一九年）、
論文に「中世後期の社会と在俗
宗教」（『歴史学研究』97号、二〇
一八年）、「梅尾茶・醍醐茶の評判
——十四世紀高山寺の喫茶文
化」（永井晋編『中世日本の茶と
文化——生産・流通・消費をと
して』アジア遊学252、勉誠出版、
二〇二〇年）などがある。

定価 10,780 円(税込)
本体 9,800 円
A5判上製カバー装・448頁
ISBN978-4-585-32011-1 C3021
2021年10月刊行

書 名	部 数
室町文化の座標軸 遣明船時代の列島と文事 芳澤 元 [編]	部
ご注文先ご住所（通信欄）	

中世寺院の仏法と社会

永村 眞【編】

中世日本において寺院は、宗教的な施設のみならず、

貴顕や武士等、様々な人々が行き交う、

政治・経済・文化形成にも大きな影響を有した場であった。

しかし、諸寺院内部で伝持されてきた史料群は、

その特質からアクセスが容易ではなく、

編者らによる寺院史料の調査・研究の方法論の構築により、

近年、大きな研究の進展を見せるようになった。

畿内近国、関東に所在する諸寺院に伝来する

史料群の博搜により、寺内・寺外の僧俗の

社会的かつ宗教的な関わりのなかで、

「日本仏教」を形づくる多彩な仏法とその発展を実現した

寺院社会の構造と思想的背景を立体的に描き出し、

中世寺院の歴史的特質と展開を明らかにする貴重な成果。

中世日本を読み解くための必読の書

【編者紹介】

永村 眞（ながむら・まこと）

一九四八年生まれ。日本女子大学名誉教授、人間文化研究機構理事、東大寺学術顧問。専門は日本中世史・中世仏教史。
著書に『中世東大寺の組織と経営』（塙諸房、一九八九年）、『中世寺院史料論』（吉川弘文館、二〇〇〇年）、『中世醍醐寺の仏法と院家』（吉川弘文館、二〇二〇年）などがある。

【目次】

はしがき…永村 眞

I 醍醐寺の法流と修学

中世醍醐寺の顕・密「聖教」と法儀…永村 眞

南北朝内乱と清浄光院房玄…石田浩子

南北朝から室町前期における理性院流と

太元帥法別当職の相承

— 理性院宗助と大覚寺證菩提院光覚の対立 —…佐藤亜莉華

醍醐寺三寶院門跡満済の教学活動…姜 錫正

醍醐寺・根来寺と田舎本寺との寺僧交流

— 尾張国万徳寺を通して —…藤井雅子

「義演准后日記」とその紙背文書…関口真規子

修法と秘号— 五大虚空藏法を通して —…井上清子

醍醐寺所蔵「野月」と松橋流秘点…高橋恵美子

II 寺院の法会と社会

中世南都の法華会…高山有紀

「春日権現験記絵」の編纂者…坪内綾子

中世東寺の修学活動— 西院と観智院 —…西 弥生

十五世紀における北野社領西京と西京神人…三枝暁子

春日社神供備進と興福寺学侶…高山京子

室町將軍家の比丘尼御所と根本所領…小谷量子

III 中世の仏法と寺院

摂関期・院政期における聖徳太子信仰と女性

— 四天王寺に集った女性たち —…榊原史子

鎌倉前期寺院社会の禪宗理解…矢野立子

中世「律院」と「結界」…飯田晶子

中世鑊阿寺の寺内組織…中田 愛

雑賀衆の戦いと鈴木孫一…三浦早織

あとがき…藤井雅子

定価 二二,二〇〇円(税込)
(本体 二一,〇〇〇円)A5判上製カバー装・六四〇頁
二〇二一年六月刊行
ISBN978-4-585-31001-3 C3015

書 名	部 数
中世寺院の仏法と社会 永村 眞【編】	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価 13,200円(税込)・本体12,000円

A5判・上製カバー装・640頁

2021年6月刊行

ISBN978-4-585-31001-3 C3015

創られた 由緒 近世大和国諸社と 在地神道家

向村九音 著

さきむら・ちかね——奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程、満期退学。博士(文学)。
現在、日本学術振興会特別研究員。専門は日本中世・近世の文学。主な論文に「『大乘院寺社雑事記』
を中心に見る率川社——中世期に形成された像と機能」(『叙説』43、奈良女子大学日本アジア言語
文化学会、二〇一六年)、「今出河一友による石上神宮由緒記の生成——「家の由緒」との連関」(『説
話文学研究』55、説話文学会、二〇二〇年)などがある。

【目次】

- 第一章 今出河一友概説
第二章 今出河一友による石上神宮由緒記の生成——「家の由緒」との連関
第三章 「大三輪神三社鎮座次第」の成立と言説の共有
第四章 「大乘院寺社雑事記」を中心に見る率川神社——中世期に形成された像と機能
第五章 「大倭神社注進状並率川神社記附裏書」に見る大和国諸社の由緒再編
第六章 近世期六師神社における由緒生成と古伝の「再発見」
近世における石上神宮鎮魂祭儀札次生成の位相
結び
附表Ⅰ 今出河一友著作・書写本の一覧
附表Ⅱ 大阪府立中之島図書館石崎文庫所蔵大神宗次関連典籍の一覧
翻刻資料 國學院大学図書館所蔵『鎮魂祭略儀式』
参考文献 一覧・あとがき・初出一覧・索引

「古え」は、
いかにして
語られたのか

近世中葉、幕府・藩の統制のもと社寺の秩序化が行われるようになると、
社寺の復興、復権などを目的として「由緒」が希求されるようになった。
それら「由緒」を説く任にあたったのは、神職や僧侶、そして神道家(神学者)であった。
石上神宮・大神神社・大和神社といった山辺の古社をはじめとして
大和国諸社の由緒記を述作した在地神道家、今出河一友。
由緒正しき伝——「失われた古伝」、「俗説とは異なる真の伝」の創出を企図した彼は、
いかなる方法を用いて、歴史的・文化的正統性を描き出したのか。
また、その言説は、地域社会において、どのように受容され、伝播していったのか。
「古え」「淵源」を語る営みの意味を捉えかえす画期的著作。

定価 八、八〇〇円(税込)

【本体八、〇〇〇円】

A5判上製カバー装・二八八頁

二〇二一年六月刊行

ISBN978-4-585-31002-0 C3014

書名	部数
創られた由緒 近世大和国諸社と 在地神道家 向村九音(著) ご送付先ご住所(通信欄)	定価8,800円(税込) 本体8,000円 A5判・上製カバー装・288頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-31002-0 C3014 部

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

説話の東アジア

『今昔物語集』を中心に

高陽【著】

宗教と文学の両面から二重の性格を兼ね、様々な読まれ方をしてきた『今昔物語集』。多くの文学者や研究者が説話の宝庫として注目することで、『今昔物語集』は「古典」となってきたと言える。

本書では、天竺説話の舞台でもある須弥山世界観の検証、これまで本格的に検証されていなかった天竺の無熱池論、『大唐西域記』など東アジア漢文諸資料から、図像資料などともあわせて、その表現過程の変遷について検証する。

また、中国古典や漢訳仏典を博搜し、『今昔物語集』を世界文学としての面から新たに位置づけようとした南方熊楠の方法論を、『太平広記』や『夷堅志』、『聊齋志異』への書き込みなどから解明する。

説話の源流とその変容、展開を軸に、説話文学の世界を東アジアから読み解く。

【編者紹介】

高陽（こう・よう）

一九八一年生まれ。清華大学人文学部外文系准教授。専門は日本と東アジアの説話文学。
主な論文に「天竺『無熱池』の説話と図像―『大唐西域記』から『日本須弥天図』『玄奘三蔵絵』へ」「日本文学」、日本文学協会、二〇一九年、「南方熊楠と宋代の『夷堅志』―熊楠の書き込みを中心に」「説話文学研究」第五十四号、説話文学会、二〇一九年、「須弥山と芥子―極大と微小の反転」（『東アジア文化講座』第三巻、文学通信、二〇二一年）などがある。

【目次】

刊行に寄せて：小峯和明

はじめに

序章 今昔物語集の東アジア世界はどのように形成されたか

第一編 須弥山と天竺の説話世界

はしがき

第一章 須弥山と天上世界―ハーバード大学所蔵

第二章 『日本須弥諸天図』と中国の『法界安立図』をめぐる

第三章 東アジアの須弥山図―敦煌本とハーバード本を中心に

第四章 須弥山と芥子―極大と微小の反転

天竺神話のいくさをめぐって

第五章 ―帝釈天と阿修羅の戦いを中心に

天竺無熱池の説話と図像―『大唐西域記』から

第六章 『日本須弥諸天図』『玄奘三蔵絵』へ

仏伝の鉢説話考

第七章 『大唐西域記』と金沢文庫保管の説草・『西域記伝抄』

第八章 『大唐西域記』と金沢文庫保管の『西域伝堪文』

第九章 悪龍伝説の旅―『大唐西域記』と『弁曉草』について

第二編 説話の受容と変容

はしがき

第一章 『今昔物語集』における「聖」「聖人」の用語意識

第二章 日本中世の孔子説話―『今昔物語集』を中心に

第三章 『今昔物語集』における僧の天界往還夢説話

第四章 鳥としての天狗の源流考

第五章 女犯聖人説話考―『今昔物語集』巻十第三十四話について

第六章 后と聖人―女犯の顛末

第七章 説話文学から大衆文学へ―染殿后譚を例に

第三編 南方熊楠と説話世界

はしがき

第一章 南方熊楠の比較説話をめぐる書き込み―『太平広記』

『夷堅志』と『今昔物語集』とのかわりを中心に

第二章 南方熊楠の書き込みに関する研究―『太平広記』を中心に

第三章 南方熊楠と宋代の『夷堅志』―熊楠の書き込みを中心に

第四章 南方熊楠と『聊齋志異』

終わりに／各論の初出一覧／参考文献／索引

定価 二二,一〇〇円(税込)
(本体二一,〇〇〇円)

A5判上製カバー装・四五六頁
二〇二一年九月刊行
ISBN978-4-585-39004-6 C3090

書名	部数
説話の東アジア 『今昔物語集』を中心に 高陽【著】	部
ご注文先ご住所（通信欄）	

定価 13,200円(税込)・本体12,000円

A5判・上製カバー装・456頁

2021年9月刊行

ISBN978-4-585-39004-6 C3090

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

韓国・朝鮮 説話学の 形成と展開



金廣植〈著〉

Kim Kwangsik (キム・クアンシク)

一九七四年韓国生まれ。東京学芸大学大学院修了(博士)。延世大学校・東京理科大学・横浜国立大学・埼玉大学などの非常勤講師、日本学術振興会特別研究員P.Dを経て、『東方学志』『実践民俗学研究』などの編集委員、立教大学兼任講師。主な著書に、『植民地期における日本語朝鮮説話集の研究』(帝国日本の「学知」と朝鮮民俗学)勉誠出版、二〇一四年、『植民地朝鮮期近代説話』(民俗苑、二〇一五年)、『近代日本の朝鮮口碑文学研究』(寶庫社、二〇一八年)、共編著に、『植民地時期日本語朝鮮説話集資料叢書』全13冊(J&C、二〇一二年)、『二〇一四年』編著に、『近代日本語朝鮮童話民譚集叢書』全4冊(寶庫社、二〇一八年)など多数。

近代教育及び植民地経験を経た韓国・朝鮮民間説話の近代的変容を捉える。

日本人研究者の植民地主義・朝鮮人研究者の抵抗民族主義という

二分法的な図式が散見される朝鮮民俗学史。しかし、そこには日本人研究者の

果たした役割とその影響がきわめて大きく、朝鮮民間説話学は近代日本の

学知の影響を受けながら形成されたものであった。

未公開資料・新出資料を含めた膨大な近代資料を収集・整理・分析し、

説話のモチーフや構造的形式の影響関係に注目。

説話の歪曲という観点を乗り越え、近現代の韓国・朝鮮民間説話学の形成過程を

総合的に分析し、個別説話の伝承とその変容を複合的に捉えなおし、

その意味を考察する。東アジア比較民間説話学を新たに再構築する基盤を提供する一冊。

〈もくじ〉

序 章

第1編 朝鮮総督府学務局の民間伝承調査と教科書

- 第1章 日本と植民地朝鮮で実施された民間伝承調査
- 第2章 朝鮮総督府朝鮮語教科書に収録された俚諺の収録過程
- 第3章 民間説話調査の内容とその意味
- 第4章 朝鮮総督府学務局編輯課と朝鮮民俗資料
- 第5章 朝鮮総督府編纂『国語読本』研究の現況と課題
- 第6章 韓国教科書における伝来童話の収録過程

第2編 朝鮮説話・童話集の刊行と比較説話学の展開

- 第1章 帝国日本の「日本」説話集における朝鮮と台湾
- 第2章 ドイツ文学者田中梅吉と朝鮮初の童話集及び絵本
- 第3章 朝鮮語で刊行された童話集と沈宜麟
- 第4章 朝鮮童話集における改作の様相
- 第5章 1920年前後における日韓比較説話学の展開
- 第6章 孫晋泰の東アジア民間説話論

第3編 韓国・朝鮮民間説話の近代的変容

- 第1章 民間説話の変容と壬辰倭乱(文禄・慶長の役)
- 第2章 植民地期朝鮮における日韓共通の昔話「瘤取り」
- 第3章 韓国における兄弟譚及び隣人譚の変容
- 第4章 朝鮮総督府編輯官立柄教授と「もの言う亀」
- 第5章 植民地期朝鮮における「三年峠」(三年坂)
- 第6章 近現代における「きこりと仙女」(天人女房譚)の展開

終 章

参考文献 ◎ハンゲル及び漢文文献◎日本語文献
初出一覧／あとがき／索引

本体 一一、〇〇〇円(十税)

A5判上製カバー装・四六四頁

二〇二一年二月刊行

ISBN978-4-585-29201-2 C3098



書 名	部 数
韓国・朝鮮説話学の形成と展開	
金廣植 [著]	
本体 11,000円(+税)	
A5判上製カバー装・464頁	
2021年2月刊行	
ISBN978-4-585-29201-2 C3098	
ご送付先ご住所(通信欄)	部

中近世移行期の文化と古活字版

高木浩明 [著]

人々を魅了した新たなメディア

十六世紀末、従来出版活動を行っていた寺院はもとより、天皇や将軍そして新興の豪商などをも魅了した、日本書物史における新たなメディアが誕生した。

——古活字版である。

これらは、どのような環境において、いかなる人的ネットワークのもとで刊行され、どのように享受されたのか。古典の代表作として広く享受され、多数の現存伝本を持つ下村本『平家物語』、史上稀なる豪華活字版本として製作された「嵯峨本」、そして、古活字版製作をめぐる場と人びとに着目し、長年にわたる古活字版の悉皆調査を行ってきた知見をもとに日本出版史における古活字版の時代を炙り出す。

嵯峨本諸本、『平家物語』下村本諸本の現存伝本目録を収載。

「著者プロフィール」……

高木浩明（たかぎ ひろあき）

清風高等学校・近畿大学文学部非常勤講師。専門は日本中世文学、書誌学。古活字版の悉皆調査により、第3回「岩瀬弥助記念書物文化賞」を受賞。著書、論文に「古活字版悉皆調査目録稿」(一)～(九)(鈴木俊幸編『書籍文化史』第十一～十九集、二〇〇一～八年)、「大東急記念文庫蔵古活字版悉皆調査目録稿」(「調査研究報告」第四十号、国文学研究資料館、二〇二〇年)などがある。

図版点数
約200点!

「目次」……

はじめに

第一部 下村本『平家物語』とその周辺

第一章 下村本『平家物語』と製作環境をめぐる

第二章 下村本『平家物語』書誌解題稿

第三章 『平家物語』十行平仮名古活字本は

下村本の底本たり得るか

第四章 下村本『平家物語』とその周辺

——國學院大學図書館蔵本から考えられること

第五章 『平家物語』古活字版一本についての覚書

第六章 古活字版『源平盛衰記』の諸版について

第二部「嵯峨本」の世界

第一章 「嵯峨本」再見——現存伝本調査報告

第二章 嵯峨本『伊勢物語』書誌考証

第二章付録 嵯峨本『伊勢物語』(慶長十三年刊本)

部分異植字一覧

第三章 古活字版『伊勢物語』書誌解題稿

第四章 嵯峨本『方丈記』書誌考証

第五章 嵯峨本『撰集抄』書誌考証

第三部 古活字版をめぐる場と人々

第一章 『百人一首抄』(幽斎抄)成立前夜

——中院通勝の果たした役割

第二章 『徒然草寿命院抄』成立前夜

——中院通勝真筆本『つれく私抄』の紹介を兼ねて

第三章 古活字版『徒然草寿命院抄』書誌解題稿

第四章 角倉素庵と学問的環境

第五章 古活字版を必要とした人々

第六章 古活字版『大和物語』の刊行年時を考える

第七章 古活字版『後漢書』の刊行年時を考える

第八章 本文は刊行者によって作られる

第九章 要法寺という場について考える

第十章 二兵衛とその出版活動をめぐる覚書

おわりに／初出一覧／図版一覧／索引

本体15,000円(+税)

A5 判上製カバー装・880 頁
ISBN 978-4-585-20077-2・C3000
2020 年 11 月刊行

書 名	部 数
中近世移行期の文化と古活字版	
高木浩明 [著]	
ご送付先ご住所 (通信欄)	

本体15,000円(+税)

A5 判上製カバー装・880 頁
ISBN 978-4-585-20077-2・C3000
2020 年 11 月刊行

部

古典は遺産か？

アジア遊学 261

日本文学にみける
テキスト遺産の利用と再創造Edoardo GERLINI
河野貴美子 [編]定価 二、〇八〇円(税込)
本体 一、八〇〇円A5判並製カバー装・二四〇頁
二〇二一年十月刊行
ISBN978-4-585-32507-9 C1395

古典テキストが伝える 人々の営為

人びとが過去から現在へと紡ぎ、
伝えてきたテキスト——「古典」。

古典を「遺産」という概念から捉えかえし、
所有性、作者性、真正性の観点から
テキストそのもののや、

それらにまつわる行為や意識を歴史的に考察。

さらに、古典と社会との関係性を照らし出す

「テキスト遺産」という概念のポテンシャルを、

文学研究と経済学・文化交流史など

諸分野の視角を重ね合わせることに提示。

文字と書物の文化研究を

新たなステージへと領導する画期的成果。

【編者紹介】

Edoardo GERLINI (エドアルド・ジェルリーニ)

ヴェネツィア・カフオスカリ大学アジア・北アフリカ学科研究員(兼・早稲田大学
総合人文科学研究センター・角田柳作記念国際日本学研究所招聘研究員)。
専門は日本中古文(特に和歌と漢詩)、比較文学。

河野貴美子 (こうの・きみこ)

早稲田大学文学部教授。専門は和漢比較文学、和漢古文・文献研究。



【目次】

序言… Edoardo GERLINI

【緒論】なぜ「テキスト遺産」か… Edoardo GERLINI

I ● 所有性

書物およびテキストの所有性における奥書の役割について… 佐々木孝浩
テキスト、パラテキスト、秘儀伝受
—— テキストを所有するとはどのような行為なのか？… 海野圭介

光格天皇と本居宣長——御所伝受と出版メディアをめぐる… 盛田帝子
「コラム」テキストの蒐集、収蔵、継承と「遺産化」のこと
—— 王羲之の書を例として… 河野貴美子

II ● 作者性

物語における「作者」の発生… 兵藤裕己

近世中期における「テキスト遺産」と「作者」… 飯倉洋一

「コラム」「作者」はいつ成立するか——日本上代の事例から… 高松寿夫

III ● 真正性

『枕草子』におけるテキストの真正性… 陣野英則

古典的公共圏の春——西円の源氏注釈をめぐる… 前田雅之

近世日本における『蒙求』の音声化——漢字音と連続性… 山本嘉孝

「コラム」仏教経典テキストの真正性と享受者
—— 古典文学テキストとのつながり… 阿部龍一

【特別寄稿】テキスト遺産としての古筆手鑑… Edward KAMENS

IV ● テキスト遺産の広がり

明石における龍宮イメージの形成

—— テキスト遺産としての「源氏物語」と「平家物語」をつなぐ夢… 荒木浩

「コラム」テキスト遺産としてのモニメント
—— 平時子… Roberta STRIPPOLI

「コラム」テキスト遺産「運動」への期待
—— 文化政策の視点から… 佐野真由子

「コラム」日本の文化経済政策

—— テキスト遺産を中心にみる現状と課題… 林原行雄

蜘蛛の巣としての電子テキスト——その来歴と現在… 稲賀繁美

テキスト遺産とは何か… Edoardo GERLINI・河野貴美子

あとがき… 河野貴美子

書 名	部 数
古典は遺産か？ 日本文学にみけるテキスト遺産の利用と再創造 Edoardo GERLINI・河野貴美子 [編]	定価 3,080円(税込)・本体 2,800円 A5判並製カバー装・240頁 2021年10月刊行 ISBN978-4-585-32507-9 C1395
ご送付先ご住所 (通信欄)	

櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉

編

元朝の歴史

【アジア遊学256】

モンゴル帝国期の東ユーラシア

一二〇六年、チンギス・カンの即位により成立した大モンゴル国は、その後継者たちにより、ユーラシア大陸全土へその版図を広げていった。その後、皇位争いに勝利し、国号を「大元」と改めた世祖クビライが、一二七九年に南宋を攻略したことにより、中国史に新たな統一王朝の名を刻むこととなる——元朝である。中国史における「元朝」とはいかなる存在であったのか——冷戦終結に伴う史料環境・研究環境の変化により、長足の進展をなしてきたモンゴル帝国史・元朝史研究の成果を受け、元代の政治・制度、社会・宗教、文化の展開の諸相、国際関係などを多面的に考察。さらには元朝をめぐる学問史を検討することにより、新たな元朝史研究の起点を示す。

【目次】

カラー口絵……『書史会要』（台湾国家図書館蔵洪武九年刊本）ほか
序言●櫻井智美
導論——クビライ登極以前のモンゴル帝国の歴史●渡辺健哉
元朝皇帝系図
本書所載論稿関係年表
元朝皇帝一覧

I 元代の政治・制度

元代「四階級制」説のその後

「モンゴル人第一主義」と色目人をめぐって●松田善之
ジャムチを使う人たち——元朝交通制度の一断面●山本明志

元代の三都（大都・上都・中都）とその管理●渡辺健哉
江南の監察官制と元初の推挙システム●櫻井智美

「コラム」カラホト文書●赤木崇敏
「コラム」元代における宮室女性の活躍●牛 瀟

元末順帝朝の政局——後至元年間バヤン執政期を中心に●山崎 岳

II 元代の社会・宗教

元代の水運と海運

——華北と江南はいかにして結びつけられたか●矢澤知行
モンゴル朝における道仏論争について

——『至元辯偽録』に見える禅宗の全真教理解●松下道信
元版大蔵經の刊行と東アジア●野沢佳美

「コラム」南宋最後の皇帝とチベット仏教●中村 淳
「コラム」夷狄に便利な朱子学——朱子学の中華意識と治統論●垣内景子

回顧されるモンゴル時代——陝西省大荔県洋氏とその祖先顕彰●飯山知保

III 伝統文化とその展開

「知」の混一と出版事業●宮 紀子

白樺の生涯と文学●土屋育子
「元代文学」を見つめるまなざし●奥野新太郎

景德鎮青花瓷器の登場——その生産と流通●徳留大輔

IV 元朝をめぐる国際関係

「朴通事」から広がる世界●金 文京

日元間の戦争と交易●中村 翼
日元間の僧侶の往来規模●榎本 涉

モンゴル帝国と北の海の世界●中村和之
元と南方世界●向 正樹

V 研究の進展の中で

書き換えられた世界史教科書

——モンゴルⅡ元朝史研究進展の所産●村岡 倫
史料の刊行から見た二十世紀末日本の元朝史研究●森田憲司

「コラム」チンギス・カンは源義経ではない
——同一人物説に立ちちはだかる史実の壁●村岡 倫

「コラム」モンゴル時代の石碑を探して
——桑原隲蔵と常盤大定の調査記録から●渡辺健哉

「コラム」混一「疆理歴代国都之図」の再発見●渡邊 久

【編者紹介】

櫻井智美（さくらい・さとみ）

明治大学文学部准教授。専門は宋元史、モンゴル帝国史。主な論文に「曹彬不嗜殺人——元代における曹彬故事の採用とバヤンの評価」（『明大アジア史論集』二二、二〇一九年）などがある。

飯山知保（いいやま・ともやす）

早稲田大学文学部准教授。専門は中国華北社会史。主な著書に『金元時代の華北社会と科学制度——もう一つの「土人層」』（早稲田大学出版部、二〇一一年）などがある。

森田憲司（もりた・けんじ）

奈良大学名誉教授。専門は中国近世社会文化史。主な著書に『概説中国史上下』（共編、執筆、昭和堂、二〇一六年）などがある。

渡辺健哉（わたなべ・けんや）

大阪市立大学大学院文学研究科教授。専門は元代都城史・近代における日中學術交流史。主な著書に『元大都形成史の研究——首都北京の原型』（東北大学出版部、二〇一七年）などがある。

定価 3,520 円(税込)
本体 3,200 円

A5判並製カバー装・322頁
ISBN978-4-585-32502-4 C1322
2021年6月刊行

書 名	部 数
元朝の歴史 モンゴル帝国期の東ユーラシア 【アジア遊学No.256】 櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉 [編]	定価 3,520 円(税込) A5判並製カバー装・322頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-32502-4 C1322 部
ご送付先ご住所（通信欄）	

書物のなかの近世国家

東アジア「一統志」の時代

アジア遊学 259

王朝のすべてを志す

しる

中国王朝が自らの領域の全体を明示すべく、各地域の歴史とデータを集積し作り上げた総合的書物「一統志」。

元・明・清において編まれたこれらの書籍は、東アジア諸国や欧州へも伝播し、

近代の地誌・歴史編纂にも影響を与えるものであった。

近代的領域認識の萌芽を体現するこれらの編纂物は、いかなる時代状況において作られたものであったのか。

編纂前史から、王朝三代にわたり編纂されたそれぞれの「一統志」のあり方、

周辺諸国や後代に与えた影響をも考察し、「一統志の時代」を浮かび上がらせる。

【目次】

序言——「一統志」の「時代」を語るために……小二田 章

1 ●一統志以前

李吉甫の描く「一統」——『元和郡県図志』とその疆域……竹内洋介
宋朝総志編纂考——総志から方志へ……須江 隆

2 ●大元一統志

元代における遼金代東北地域に対する地理認識の地域差
——『大元一統志』『遼史』『金史』『大元混一方輿勝覧』の
地理記述の比較から……高井康典行

中国史上の「大一統」と『大元大一統志』……櫻井智美

『大元一統志』における路に関する記載について

——『大元一統志』輯本の理解のために……吉野正史

「コラム」宋元時代の道教と地誌——茅山の事例を中心に……酒井規史

3 ●大明一統志

明代景泰——天順期の政局と一統志……高橋 亨

『大明一統志』人物伝とは——『遼東志』との関係をめぐる……荷見守義

『大明一統志』に関するいくつかの問題について……巴 兆祥(訳:小二田 章)

「コラム」元・明一統志の非中華世界へのまなざし……向 正樹

4 ●大清一統志

明清期個人編全国志初探——大明から大清への「一統志」の道……小二田 章

北辺からみる『大清一統志』……柳澤 明

「コラム」ヨーロッパに伝えられた中国の地理情報

——『皇輿全覽図』の製作と宣教師の記録……澤 美香

5 ●東アジアの一統志

中井竹山の名分論について

——他学派批判との関連を中心に……清水則夫

「津軽一統志」の編纂と弘前藩……長谷川成一

「文芸」の地誌から「口承」の地誌へ

——『信達風土雜記』と『信達一統志』……高橋章則

朝鮮近世の地理誌は誰のものだったのか……吉田光男

朝鮮燕行使の『大明一統志』輸入について……辻 大和

周縁から見た一統志——南の小中華と『大南一統志』……岡田雅志

6 ●一統志のかなた

古典期(十・十三世紀)イスラーム世界における地方史誌

——ウラマーの地方観と知的実践……森山史朗

小国が自ら国境線を引くとき

——デンマークの国境設定一〇〇周年に寄せて……村井誠人

「コラム」清末民国期の地方史編纂——地域と宗族を記録すること……山田 賢

日本近世地誌の編纂と地名記載……白井哲哉

編集後記……小二田 章



『大南一統志』

小二田 章(こにた・あきら)

早稲田大学文学部教授・専門は近世中国史

高井康典行(たかい・やすゆき)

早稲田大学文学部教授・専門は契丹(遼)史

吉野正史(よしの・まさふみ)

明治大学兼任講師・専門は中国北方政治史



『新増東国輿地勝覧』

書 名	部 数
書物のなかの近世国家 東アジア「一統志」の時代 【アジア遊学 259】 小二田 章・高井康典行・吉野正史 [編]	部
定価 3,300 円(税込)・本体 3,000 円 A5判並製カバー装・288 頁 2021 年 8 月刊行 ISBN 978-4-585-32505-5 C1322	
ご送付先住所(通信欄)	

もう一度読みたい 日本の古典文学

定価 二、六四〇円(税込)
「本体二、四〇〇円」

A5判並製カバー装・三六〇頁
二〇二二年八月刊行
ISBN978-4-585-39001-5 C0091

三宅晶子【編】

学校で教わっていた「古典」は
実はこんなに面白かった！

『竹取物語』『平家物語』『徒然草』など、
小・中学校・高校教科書に掲載される
日本の古典文学作品を中心にとりあげ、
新しい読み方・楽しみ方、
知っているとより作品が楽しめる豆知識などを
多数の図版とともに解説。
ライトノベルやアニメ・漫画などの題材になり
現代にもつながる古典文学についても考察し、
実際の教育現場での教え方・授業案なども紹介。
古典嫌いになってしまったあなたに贈る、
新しい古典入門。

【编者紹介】

三宅晶子(みやけ・あきこ)

横浜国立大学名誉教授・奈良大学教授。専門は中世日本文学(特に能楽、
古典教育。主な著書に『世阿弥は天才である——能と出会うための一種の
手引き書』(草思社、一九九五年)、『歌舞能の確立と展開』(ベリカン社、二〇
〇一年)、『歌舞能の系譜——世阿弥から榎竹へ』(ベリカン社、二〇一九年)
などがある。『榎書店対談で楽しむ能』シリーズ刊行中、「能の現代」(花も
よ)連載中。

もくじ

楽しい古典文学と出会うために◎三宅晶子

第一部 日常のどこかで出会った古典文学

【百人一首】感じる『百人一首』◎三宅晶子

【竹取物語】不死の薬に託されたかぐや姫の思い◎山田香織

【説話】繋がっている今と昔——昔話「こぶとりじいさん」と
『宇治拾遺物語』「鬼に瘤取らるる事」◎三宅晶子

【義経記】『義経記』義経像の変遷◎長島裕太

【神話】神話因幡の白ウサギ◎高梨禎史

【国語教育】国語教育の役割と「古典」や「古文」の教育◎府川源一郎

第二部 学校で学んだ古典文学

【軍記】軍記教材を読みなおす——二度目からの『平家物語』・
「敦盛最期」「木曾最期」の場合◎鈴木彰

【平家物語】「敦盛最期」を読み直す◎菊野雅之

【竹取物語】『竹取物語』が「竹取の翁」といふものありけり」と
語り出される訳——絵本「かぐや姫」と『竹取物語』の
冒頭部の比較から◎武田早苗

【源氏物語】紫式部と出会う◎三宅晶子

【徒然草】『徒然草』で学ぶ異文化◎笠原美保子

【中国説話】中国の「蟻通し」難題譚◎岡田充博

【漢詩】「長恨歌」と謫仙女楊貴妃◎高芝麻子

【古筆切】古典文学の本文を考える
——写本・古筆切の世界◎徳植俊之

【国語教育】いざれ役に立つかもしれない古典から、
今に働きかけてくる古典へ◎高木まさき

第三部 現代社会で再生される古典

安倍晴明は、なぜスーパーヒーローになったのか。◎一柳廣孝

ライトノベル・少女小説・児童文庫から親しむ古典文学◎山中智省

古典と現代の言葉の接点を求めて◎藤原悦子

小学生と古典を楽しむ◎渡辺寛子

拡張する「古典」——デジタル時代における

古典の役割と意味の変容◎石田喜美

あとがき◎三宅晶子

書 名	部 数
もう一度読みたい日本の古典文学 三宅晶子【編】	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

定価 2,640円(税込) [本体2,400円]

A5判並製カバー装・360頁

2021年8月刊行

ISBN978-4-585-39001-5 C0091